

この地から！



この力！

直撃 インタビュー

子どもたちに生の音を届けたい！

の の だ ま ん て る
野々田万照さん

(サックス奏者／名古屋芸術大学 教授)

サックスの奏者として、映画「マルサの女2」「ミンボーの女」「スーパーの女」、テレビ朝日系列「ニュースステーション」などの音楽を手掛け、「熱帯JAZZ楽団」のメンバーとして11枚のCDを出すなど、全国的に活躍している野々田万照さん。

岐阜市に住みながら、幼稚園や小中学校への出前ライブなどの音楽活動も大切にしていきたいという思いを鷺山のご自宅でお聞きしました。

この音色を出したい！運命の出会い

5つ年上の兄の影響で小学3年生の時からギターを覚えました。兄を通して、フォーク、ロック、そしてジャズと様々な音楽を聴きました。兄のバンドに入りたい一心でサックスを始め、ライブハウスで演奏するようになりました。そこで出会ったのが本多俊之さん。

本多さんが鳴らす音は、第1音から違っていました。自分の中の全てが吹き飛んだ感じがしたことを今でも忘れられません。

生で聴く本物の音との出会い。

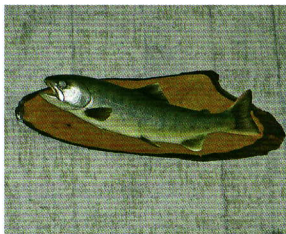
「いつかこの音色を出したい。」

と思ったのは高校2年生でした。

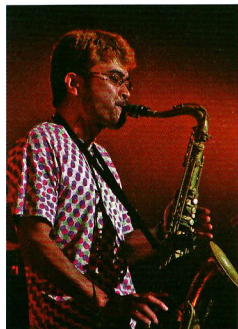
あの音を出すために、もっと上手になりたいとこれまで練習を重ねてきました。



山と川、何より「つりができること」が岐阜の魅力



31歳になり長女が生まれたことをきっかけに、東京から、ふるさと岐阜に帰ることにしました。子どもが安心して遊べる環境で子育てしたいという思いがあったからです。帰ってきて感じることは、自然の魅力です。岐阜といえば山と川。新鮮な空気やおいしい水は大きな魅力。郡上八幡を訪れた時、サツキマスをつったことから、つりに夢中になってしまいました。今では「川漁師」として、8月になると、ほとんど毎日のように、つりをしています。



生のジャズにふれて、何かを感じてほしい

数年前から、幼稚園や小中学校などへの「出前ライブ」を行っています。依頼があれば、サックスを持って出かけます。子どもたちに生のジャズにふれてほしいからです。

クラシックを聴くことはあっても、生のジャズを聴く機会は、少ないでしょう。子どもたちが生のジャズを聴いて、音楽が好きなようになるきっかけになればいいなと願っています。

みんなへのメッセージ

「いろいろなことに触手をひろげよう。どんな所に出会いはあるかわからない。固定概念にとらわれず、幅広く目を向け、自分の好きなものを探してみよう！」



🎁 プレゼント

野々田万照さんのサイン色紙(写真つき)をプレゼントします。くわしくは、裏面のプレゼントコーナーをご覧ください。

自分自身を導いた生の音に宿るエネルギーを、岐阜に住む子どもたちにも伝えたい。機会があれば、幼稚園や学校などへ呼んでくださいと、気さくな語り口で熱い思いを語っていただきました。

野々田万照さん プロフィール

1964年、岐阜市生まれ。鷺山小、青山中、岐陽高(現：本巣松陽高)を卒業後、本多俊之氏に弟子入りして、19歳でデビュー。全国での演奏活動をはじめ、映画音楽なども手がける。岐阜へ帰郷後も吹奏楽団のゲスト出演、学校での講演、コンサートなど、多岐にわたり活躍。2005年に名古屋芸術大学音楽学部へ招かれ、教壇に。また、郡上漁業協同組合員として、長良川で釣った魚を漁協へ卸す川漁師でもある。平成19年度「岐阜市芸術文化奨励賞」を受賞。